

令和元年度おだわら市民交流センターUMECO運営評価の流れ（案）

5月中下旬

第7回会議

○指定管理者より令和元年度事業報告

質疑により必要事項を聴取

資料：事業一覧、実施事業報告、指定管理者自己評価表 等

①

②

③

○第三者評価に係る意見交換

資料：第三者評価シート

④



5月下旬

第三者評価シートに記入し、事務局へ提出



6月上旬

事務局においてとりまとめ

第三者評価結果（案）の送付

資料：意見集約シート ⑤（原案）



6月中旬

意見集約シートに対する修正意見を事務局へ提出



7月4日

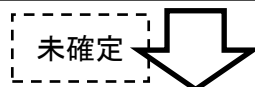
第8回会議

○第三者評価確定に向けての意見交換

資料：意見集約シート、第三者評価（案）

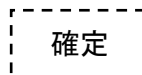
⑤（修正版）

⑥



7月上旬

正副委員長確認



7月中旬

指定管理者に第三者評価結果送付
市ホームページへ掲載

番号	事業名	機能						実施月											
		拠点	相談支援	協働支援	学習体験	交流	情報発信	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	UMECO企画展	◎				○	○												
4	イーパーツパソコン寄贈事業	○	◎	○				募集期間			審査会	寄贈式							
5	相談業務		◎	○			○												
6	市民活動団体と事業者との協働事業	○		◎		○		サマーフェスティバル◎				X'masフェスティバル◎			スプリングフェスティバル◎				
7	地域活動団体ネットワーク形成事業	○		◎		○													
8	各主体とUMECOとの協働事業 ①うきうき交流サロン	○		◎			うきうき交流サロン 6/11						うきうき交流サロン 2/6						
										パートナーシップ支援事業 2/27									
9	市民活動入門講座		○		◎					7/20	8/12								
10	NPOマネジメント講座		○		◎													3/16	
11	夏休みボランティア体験学習		○	○	◎	○				体験学習 7/21～8/31		纏め 報告							
12	高校生ボランティアエアポート	○	○	○	◎	○		毎月第2日曜定例会											
13	市民活動出張講座(ボランティア出前講座)		○		◎														
14	男女共同参画講演会		○		◎				6/9										
15	女性の就労支援・起業講座		○		◎								10/29						
16	インターンシップ受入				◎														
17	UMECO祭り	○				◎	○		実行委員会				11/25						
18	まちづくり交流会	○				◎		実行委員会		6/24				11/4					
19	わくわく交流会	○	○	○		◎				7/6					12/16				
20	新春交流会	○				◎	○									1/19			
21	ティーサロン	○	○			◎		毎月第2土曜											
22	ホームページ・フェイスブックの運営						◎												
23																			
24	UMECOだより・つながるの発行						◎	4. 5月号◎	6. 7月号◎		8. 9月号◎		10. 11月号◎		12. 1月号◎		2. 3月号◎		
25																			
26	FMおだわら・J:COMの活用						◎												

平成30年度おだわら市民交流センターUMECO実施事業報告

②

令和元年5月20日
第15回会議
資料 1-5

①拠点機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29年度 実績値	30年度 目標値	30年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
1	UMECO企画展	きっかけ	市民活動団体が実施している社会貢献活動内容等を多くの市民に周知し団体と市民がつながるきっかけを作る。	多目的コーナー及びホワイエを活用し、様々なテーマで展示を行っている。 ★詳細は別紙1参照	開催回数 参加団体数	35回 42	35回 40	38回 40	109% 100%	出展団体が回を重ねるたびに上達し発表の機会を楽しみにしている。団体の資質の向上につながった。	入場者の満足度を把握することが難しい。
2	団体登録制度	—	市民活動団体が、活動エリアの予約ができるようにするとともに、団体の情報を把握することにより適切な支援を行う。	7月から翌年6月までを登録期間とし、1年ごとに更新手続きを行う。	年度末の登録団体数	415	400	391	98%		取り組みをPRしより多くの団体の拠点となることを目指す。
3	活動エリア管理	—	市民活動団体が、無料で使用できる活動の場を提供する。	登録団体が、3か月前から予約できる。なお当日空いている場合は交流エリアとしてだれでも利用できる。	活動エリア稼働率	23.59%	25%	25.7%	103%	利用者の認知度が上がった。	

②相談・支援機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29年度 実績値	30年度 目標値	30年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
4	イーパーツパソコン寄贈事業	行動	必要としている市民活動団体にパソコンを提供するとともに登録団体が活動をより活発化するために本事業を通じて、団体会員のレベルアップにつながる。	年1回、NPO法人イーパーツを経由してリユースパソコンを登録団体に提供するとともに、主催者側の審査等も行う。	開催回数 寄贈団体数	1回 2	1回 3	1回 4	100% 133%	目標値を達成できた。	登録団体に周知しているが積極的に申請してくる団体が少ない。
5	相談業務	全て	相談内容に応じ、適切な対応をすることにより、相談者への市民活動を活発化させる。	市民活動・NPO法人・その他一般の方からの相談を、電話、メール、来館により受付、対応している。 ★詳細は別紙2参照	相談件数	53件	40件	64件	160%	3月に入り相談件数が増加した。	対応者に心のゆとりができると対応がうまくなる。職員の心のゆとりが取れるよう改善したい。

③協働支援機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29 年度 実績値	30 年度 目標値	30 年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
6	市民活動団体と事業者との協働事業	実現	市民活動団体が企業とネットワークを組むことにより、市民活動団体の活動場所や市民活動の意義の周知にもつながる。また、団体の資質の向上にもつながる。	登録団体と企業が共同事業を展開することにより登録団体の活動内容を、市内外の広い地域の方に周知することができる。 現在、シティーモールと協働で、市民活動団体によるコンサートを年3回実施している。	開催回数 参加団体数 来場者数	3 回 28 2000 人	3 回 30 2000 人	3 回 31 2000 人	100% 103% 100%	今年度は出演団体だけでなく参加団体も募集し、作品の販売や子供が喜ぶ鉄道の S L 運転などが参加し団体の活動の場が広がった。	今後演奏に限らず色々な団体を、発表の機会が得られるようにする。
7	地域活動団体ネットワーク形成事業	実現	地域活動団体と市民活動団体をマッチングし、地域の活性化や課題解決へと結びつける。	地域活動団体等から依頼に応じ、依頼内容に適した市民活動団体を選定し、紹介している。依頼の目的は敬老会や、交流サロンの様なレクリエーションが多い。 ★詳細は別紙 3 参照	実施回数 実施団体数	78 回 6	70 回 10	67 回 6	96% 60%	地域活動団体からの依頼が定着してきた。	依頼のある分野や出演団体に偏りが生じている。 UMECO の方から事業の PR などを行い、新たな分野団体を開拓する。
8	各主体と UMECO との協働事業	①きっかけ	①小田原市社会福祉協議会・地域包括支援センターしろやま・UMECO との協働事業。福祉関係の団体を支援しているおだわら社会福祉協議会と連携を取り進める。	①今年度は「うきうき交流サロン」を3事業者の協働事業として実施した。交流が進み、各主体が自主的に企画を提案し協働することによりさらに効果が大きくなると考えられる。 内容 体操・交流会等	①開催回数 参加者数	2 回 80 人	2 回 80 人	2 回 80 人	100% 100%	①3 者の協働事業なのでそれぞれの持ち味を生かしスムーズにできた。	①できれば事前の打ち合わせを丁寧にするにより、もっと新たな企画ができるのではないかと感じた。
	① うきうき交流サロン										
	② 企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業	②実現	②神奈川県と UMECO の協働事業。多様な主体の出会いときっかけづくりの場を提供する。	②多用な主体の連携をテーマとした基調講演、事例紹介、ワークショップを実施する。	②開催回数 参加者数			1 回 60 人		②企業・NPO・大学の良い関係を創出することができた。	②つながりをさらに充実させるため、継続して開催する。また、ワークショップの時間配分を検討する。

④学習・体験機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29 年度 実績値	30 年度 目標値	30 年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
9	市民活動 入門講座	きっかけ	市民活動を知らない方を主な対象に市民活動に興味を持ち、市民活動を始めてもらうようなきっかけを作る。	市民活動の基本的な内容や、市民活動の楽しさを知ることができる全2回の連続講座。 1回目 7月20日 2回目 7月26日	開催回数 参加者数	2回 47人	2回 50人	2回 27人	100% 54%	受講者が団体に入り活動を始めた。	参加者が高齢化しているが今後幅広い年齢層の人に市民活動を知っていただきたい。
10	N P O マ ネジメン ト講座	実現	市民活動団体が知識を身に付けNPO法人化し、法人としての事業計画・会計に関わるノウハウを習得することで、団体の活発な活動を促す。	NPO法人になるための書類の作り方や資金調達の方法について、専門家を招き講座を開催する。 ・3月16日実施	開催回数 参加者数	1回 17人	1回 20人	1回 13人	100% 65%	掲示物・チラシ・声かけ・SNSで実施までPRした。	講師の選定を厳選する。
11	夏休みボ ランティ ア体験学 習	きっかけ	青少年の時期には、学校内外を通じてボランティア活動の場や機会を充実させることが大切である。社会にどのような貢献ができるかという「ボランティア精神の芽生え」のきっかけを夏休み期間に提供する。	ボランティアの受け入れを登録団体に募集し、受け入れ団体と児童・生徒との橋渡しをし、できるだけ多くの市民活動団体の体験をしてもらう。	開催回数 参加団体数 参加者数	1回 47 320人	1回 45 350人	1回 45 258人	100% 100% 74%	参加者が楽しく、ボランティアの重要性や必要性を体験学習できたのは大きな成果。	今年度は酷暑と台風到来のため外でのボランティア活動の申し込みが激減し、中学生の参加が減少した。
12	高校生ボ ランティ アエアポ ート	きっかけ	「エアポート」は高校生によるボランティア活動の企画・運営等、県内の高校生がボランティア活動のために集まる拠点である。	活動に参加している高校生ボランティアの意思を尊重し、高校生自らが企画運営する事業のサポートなどを行い、自立に向けた活動支援をする。	定例会 イベント数	12回 20回	12回 15回	12回 14回	100% 93%	ティーサロンへのボランティア参加者が定着してきた。	定例会への参加者が少なく会を運営する機能が成り立たなくなってきた。

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29 年度 実績値	30 年度 目標値	30 年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
13	市民活動出張講座 (ボランティア出前講座)	きっかけ	中高大学生に市民活動とは何かを知っていただくと同時に、市民活動を実践していただくきっかけを作る。	市内の大学や高校へ積極的に働きかけ、市民活動について広く周知する機会を得る。市民活動を理解し啓発するために依頼し講座を開催した。 6月27日城山中学校 6月27日旭丘高校 7月11日相洋高校 7月19日城山中学校	開催回数 参加団体数 参加者数	3回 7 390人	3回 7 350人	4回 9 451人	133% 129% 129%	できるだけ近隣の学校から交渉に行き講座を実施することができた。	今後さらに1つでも多くの学校を対象に交渉をし、学校側のボランティアに対する理解を深める。
14	男女共同参画講演会	きっかけ (男女共同参画)	男女共同参画に関する講師を招き、男女共同参画についての理解を深めると同時に市民活動へのきっかけを作る。	6月9日に講演会を実施した。 (人権・男女共同参画課との協働事業)	開催回数 参加者数	1回 108人	1回 100人	1回 70人	100% 70%	参加者に40代、50代の女性が多く講演内容に大変共感を得ることができた。	「男女共同参画」の推進には、男性の理解・意識の改革も必要。本講演会にもより多くの男性の参加が求められる。
15	女性の就労支援・起業講座	きっかけ (男女共同参画)	女性の自立を目指し、特に就労に視点を当て、経済的に自立を支援すると同時に市民活動へのきっかけを作る。	女性の働き方にもいろいろあるので自立に向け就労・起業に関する講座を開催する。 (人権・男女共同参画課との協働事業) 10月29日 講師 ハローワーク	開催回数 参加者数	2回 1回目 4人 2回目 4人	1回 20人	1回 6人	100% 30%	就労を求める女性に対して、実践的な書類作成方法や面接への対応方法など参考になった。	集客のための工夫(対象者・内容等)女性就労に限らないテーマの選定(エンパワーメント)
16	インターンシップ受入	きっかけ	若い力を育てるためインターンシップの受け入れを行い、多くの登録団体とつながる機会を作る。	インターンシップを希望する学生さんに対し、充実した体験学習をしていただくために、要望や希望を受け入れ効果的な実施体験をしていただく。	参加者数	2人	2人	1人	50%	毎年やる気のある学生さんが参加し、どの事業にも積極的に対応し多くの成果を得たと思う。	もっと大勢の学生さんいろいろな社会経験をしていただきたい。

⑤交流・コーディネート機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29 年度 実績値	30 年度 目標値	30 年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
17	UMECO 祭り	きっかけ	多くの市民にUMECO や市民活動団体を周知し、市民活動参加へのきっかけを作るとともに、参加団体相互の交流を図る。	登録団体や利用者が一堂に会し、活動発表や作品展示など様々な企画（活動紹介・物品販売・パフォーマンス）を行い自分たちの活動内容を多くの市民に知らせる。 開催日 1 1 月 2 5 日	開催回数 参加団体数 参加者数	1 回 101 4000 人	1 回 105 4000 人	1 回 100 4000 人	100% 95% 100%	協賛金が多くなったのでUMECO 祭りの備品が充実してきました。	参加団体も慣れてきたので準備などはスムーズにできるようになったが一方マンネリ化してしまう心配がある。
18	まちづくり交流会	行動	市民活動団体間で情報交換することにより、新たなまちづくりのきっかけを設定し、テーマを設定しそのテーマにそって交流することにより、新事業を展開することになる。	街づくりを広範囲でとらえ、市民の中から要望があればそれを提示し、同意した団体や人が集まり、新たな展開をするもので、今年度も文学を中心とした団体さんによる第 3 回声の万華鏡を実施した。 また高校生を仲間に入れ「君の万華鏡～高校生とライブ in UMECO～」を新たに実施した。 6 月 2 4 日 1 1 月 4 日	開催回数 参加団体数 参加者数	1 回 24 170 人	2 回 30 250 人	2 回 26 310 人	100% 87% 124%	今年から高校生とコラボしながらの発表会ができた。活気ある演劇に感激した。高校生と大人の演劇の違いを感じ立場の違う者同士が大きな学びを得ることができた。	今後学校との連携を取りしっかりと組織づくりをし継続性のあるものにしたい。
19	わくわく交流会	行動	同じ分野で活動する市民活動団体の交流事業。 第 1 回 国際交流 第 2 回 環境保全を活動の主軸とする団体により次の目的を達成するため実施する。 ・団体同士の交流 ・団体の活動 P R	団体同士の連携をとれるよう、各回でテーマに沿った活動報告やワークショップを行った。 第 1 回 7 月 6 日 第 2 回 12 月 16 日	開催回数 参加団体数 参加者数	1 回 20 380 人 (プチマーケット)	2 回 15 60 人	2 回 第 1 回 11 第 2 回 12 第 1 回 23 人 第 2 回 17 人	100% 153% 67%	同じ分野の人との交流ができ、今後の活動が協力して進められる可能性ができた。	分野別に行ってきたが、それぞれ課題が出てきたので今後この事業を継続し課題解決につなげたい。

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29 年度 実績値	30 年度 目標値	30 年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
20	新春交流会	行動	市民活動団体と地域活動団体が一堂に会し交流を図ること で、市民活動団体同士及び市民活動団体と地域活動団体とのつながりをうみだす。	1 部は市民活動団体の活動周知 2 部は参加者同士の交流を図れるよう、歌や踊り、福引を交え工夫を凝らし開催。 開催日 1 月 19 日 内容 1 部 団体紹介 2 部 交流会	開催回数 参加団体数 参加者数	1 回 42 1 部 131 人 2 部 128 人	1 回 42 1 部 130 人 2 部 130 人	1 回 51 1 部 142 人 2 部 142 人	100% 121% 109% 109%	1 月でコートを着てくる方が多いので、クロークを用意したところ、大好評だった。 参加費を 5 0 0 円値上げし、2 部の食事のメニューを工夫（ピザを手配するなど）したところ、大変好評だった。	1 部の団体活動発表の時、プロジェクターを使用しない団体も、事前に資料を作成しておくとい。
21	ティーサロン	きっかけ	市民活動団体をはじめ、広く一般市民の方を対象に、お茶をしながらソフトな雰囲気の中で交流会を開催する。また U M E C O からの様々な情報を提供し、市民活動を知っていただく機会とする。	団体や市民が興味を示す工夫や四季を通じた行事色を生かし誰もが一緒に季節感を楽しみながらお茶を飲める雰囲気を作りおもてなしをする。5 月には北条五代祭りを応援し外でティーサロンを開催した。	開催回数 参加者数	12 回 580 人 (北条五代祭り含む)	12 回 600 人	12 回 600 人	100% 100%	ティーサロンも 3 年間継続して実施してきたので、市民に定着しリピーターが増えた。	学生ボランティアと一般ボランティアの方がいないと事業が回っていかない状況の改善をする。

⑥情報の集約・発信機能

No	事業名	コンセプト	目的	実施内容等	指標	29 年度 実績値	30 年度 目標値	30 年度 実績値	達成率 (%)	成果	課題・対応
22	ホームページの運営	きっかけ	UMECOのホームページとして必要な情報を掲載し発信する。多くの人にUMECOの活動内容を知らせる。	市民活動団体に必要な情報・助成金・活動の予告・団体からの情報そのほか必要と認める内容を掲載した。						トップページの写真をタイムリーに載せることができた。	できるだけ情報を早く載せるようにしたい。
23	フェイスブックの運営	きっかけ	情報発信の身近な手段として、市民活動団体や他の情報を知らせて市民活動に興味をもってもらう。	団体や企業・市内外のタイムリーな情報を発信した。						UMECOの事業だけでなく、団体や身近にある新情報をどんどんUPすることができるようになった。	職員全員ができるようにしたい。
24	UMECOだよりの発行	きっかけ	多くの市民に市民活動への興味をもってもらえるようなイベントやボランティア情報を提供し、市民活動の担い手を増やす。	市民活動に直接つながる情報だけでなく、市民が関心を示す社会的な記事、季節感ある記事なども掲載するとともに見やすいレイアウトを心がける。より多くの市民に読んでいただけるよう努める。 偶数月隔月 6 回発行	発行回数 発行部数	6 回 2500 部	6 回 2500 部	6 回 2500 部	100% 100%	紙面のレイアウトが見やすいように工夫された。	担当が共通理解を持ち、読んでいただける情報をキャッチし記事の作成ができるようにしたい。
25	つながるの発行	行動	活動団体にUMECOの事業の情報や市民活動に関わる情報を提供し利用促進を図る。	活動団体が他団体の情報や、活動を知らせるための記事載せる。 偶数月隔月 6 回発行	発行回数 発行部数	6 回 2500 部	6 回 2500 部	6 回 2500 部	100% 100%	団体が「UMECOだよりの違いを感じて読むことができるようになった。	紙面の使い方を工夫し、もっと情報を載せられるようにしたい。
26	FMおだわら J:COM の活用	きっかけ	ラジオ及びケーブルテレビを通し、団体の内容を一般市民にPRする。	FMおだわら（毎週日曜日のAM10時～）10分間団体の活動紹介をする。 J:COM（随時）団体のイベント情報の紹介等を行う。	ラジオ 放送回数 参加団体数 参加者数	51 回 41 55 人	53 回 45 55 人	52 回 53 71 人	98% 118% 129%	毎週日曜日の10時に活動団体の情報をながすFMおだわら放送が定着してきたので、団体もイベントがあるときは積極的に要望するようになった。	今後市民活動団体の成果を伝えたい。

おだわら市民交流センター指定管理者自己評価表（平成 30 年度分）

③

令和元年 5 月 20 日
第 15 回会議
資 料 1-7

【機能の達成状況】

（１） 6 つの機能

低い 高い
評価点 . . . 1 2 3 4 5

名称	評価点	評価の理由
拠点機能	4	拠点事業として、どの事業も UMECO の機能を生かし活動できた。UMECO 企画展では多くの方が関心を示し、「いつも素晴らしい展示なので、見るのが楽しみです。」といってください方がいるのはうれしい限りです。これからも展示品を見て楽しんでいただき、その中から市民活動への理解が深まり、自ら市民活動をやってみたいという気持ちになっていただけるようにしたい。今年度は団体数 35 と行政は 5 回参加し多くの団体の活動紹介ができた。
相談・支援機能	3	相談に関して全員が対応できるように努力した。どんな相談でもしていただけるような信頼度を更に深めたい。
協働支援機能	4	地域の課題解決の為に市民活動団体の特性を生かし支援した。企業との協働事業は更に活発化し出演団体以外にも 3 団体が協力し更に拡大しつつある。
学習・体験機能	4	ボランティア機会の提供はそれぞれの事業で取り組んだが、特に夏休みボランティア体験学習に参加していただくために、市民活動出張（出前）講座に力を入れた。
交流・コーディネート機能	4	交流機能の事業はそれぞれの目的に合わせ、かなり交流がうまくできた。特に声の万華鏡では高校生とのコラボが出来、初めて高校生と一緒に「高校生とライブ in UMECO」を実施することができた。高齢化の中で、若者とのコラボは活気的です。新春交流会では、連合自治会長さんも積極的に参加していただき交流がさらに深まった。
情報の集約・発信機能	3	フェイスブック・ホームページ・UMECO だよりはそれぞれの機能をフル活用した。団体や市民からもよい反応を頂いた。

（２） その他

名称	評価点	評価の理由
男女共同参画	3	参加者アンケートによると、男女共同参画の講演を機に男女共同参画の理解が約半数の方に深まった。
国際交流	3	わくわく交流会では 7 団体の活動報告をした。団体の関わる国の文化の紹介をし、異文化情報交換ができた。

【コンセプトの達成状況】

名称	評価点	評価の理由
誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場	4	どの事業も活動を通しつながりを重視しているので、事業ごとに目的を達成するようきっかけ作りをしている。ティーサロンでは、多くの方に参加して頂き交流とつながりが定着してきた。
シェアしながら それぞれの思いが繋がる行動の場	4	わくわく交流会では国際交流と環境の保全の 2 回を実施した。国際交流では特に異文化の情報交換ができた。
地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場	4	今年度は、企業・NPO・学校のパートナーシップを県との協働事業で実施した。この中で、市民活動団体が企業や学校との繋がりができるようなきっかけづくりをした。

【その他】

名称	評価点	評価の理由
センターの使用許可 ・会議室の許可等 ・市民活動プラザの許可等	5	事業計画書以上の人員を配置し、迅速な使用許可、付帯設備貸出等を行った。 【管理要員の基本ローテーション】 計画時は午前5人、午後7人、夜間3人 → 30年度は午前6人、午後8人、夜間3人
センターの維持管理 ・印刷機の維持管理 ・清掃業務 ・建築設備の保守管理 ・備品等保守管理 ・防火管理業務	4	建物所有者の小田原市事業協会担当者と連携し、建設設備の保守管理等、適切な管理に努めた。
事業計画・報告等に関する業務 ・事業計画書及び収支予算書等の作成提出 ・事業報告書の作成及び提出	3	
事業評価に関する業務 ・履行状況の報告 ・利用者の意見、要望の収集 ・利用者会議の実施 ・市との定例会議の開催	3	
施設利用者の安全管理及び危機管理	3	
市主催事業等への協力	4	公用車駐車場料金を免除（平成30年度328,900円相当）した。特別先行予約を受付けた。

委員氏名

低い 高い
評価点・・・ 1 2 3 4 5

I 機能の達成状況

(1) 6つの機能

名称	評価点	評価できる点	課題・改善すべき点
①拠点機能 ・日常的な打ち合わせや活動内容の発表などの活動と交流の場を提供 ・多様な市民活動や事業者による社会貢献活動などの企画展示			
②相談・支援機能 ・ボランティアを始めたい人への相談対応や団体運営についてのアドバイスなど、市民活動に関する幅広い相談の受付 ・市民活動を活性化させるための、人材や資金の確保等に関する支援			
③協働支援機能 ・市民活動団体と、行政や事業者などの連携を支援 ・市民や市民活動団体などに直接働きかけ、新たな協働を創出			
④学習・体験機能 ・事業計画立案や集客力向上の手法など、活動を発展させるための講座の実施 ・誰でも参加できるボランティア体験機会の提供			
⑤交流・コーディネート機能 ・同じ分野で活動する団体間や分野、業種を超えた交流機会の提供 ・さまざまな活動と情報、人、場所といった地域資源を結びつけるための調整			
⑥情報の集約・発信機能 ・さまざまな活動情報の集約と発信 ・新たな交流や参加につながる情報誌の発行やインターネットツールの活用			

(2) その他

名称	評価点	評価できる点	課題・改善すべき点
①男女共同参画			
②国際交流			

Ⅱ コンセプトの達成状況

名称・視点	評価点	評価できる点	課題・改善すべき点
誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場 ・知り合いができたか ・市民活動を知るきっかけになったか ・市民活動団体を紹介できたか ・市民活動を始めるきっかけになったか ・市民活動に興味を持ったか			
シェアしながら それぞれの思いがつながる行動の場 ・団体の思いを共有できたか ・団体同士の思いがつながったか ・団体の活動が広がったか			
地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場 ・地域の課題をとらえているか ・地域の課題解決ができたか ・社会貢献に役立つ行動ができたか			

第三者評価に係る意見集約シート（修正版）

※各意見の区分について

「成果」・・・成果と言える点、評価できる点

「課題」・・・課題である点、改善すべき点

「要望」・・・上記以外の要望等

5

令和元年6月29日

第16回会議

資料 2

I 機能の達成状況

(1) 6つの機能

①拠点機能【3.6点（4点：6人、3点：4人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	市民と団体がつながる機会を作りとてもよい関係である。	UMECO企画展や活動エリアの稼働率について目標値を達成しており、拠点としての周知が進んでいる。
	イ	UMECO企画展では、同じ分野で活動する団体が展示スペースを共有し、団体同士がつながるきっかけの場となっている。	
	ウ	UMECO企画展、活動エリア管理については目標値に達した。	
	エ	企画展、活動エリアの稼働率とも目標値を上回るとともに、団体登録についてもおおむね目標値を達成するなど、拠点としての周知が進んでいると思われる。	
	オ	活動エリアの稼働率が目標値に達した。	
	カ	活動エリアの稼働率が上がったのは評価できる。	
	キ	会議室の稼働率がよい。	
課題	ク	UMECO企画展については、多様な主体の拠点となれるよう努め、またホワイエの積極的活用を図るべき。	UMECO企画展において、より幅広い主体が参加できるよう、ホワイエの積極的活用を図るとともに、アンケートボード等による来場者の満足度の把握やPRに努めていたきたい。
	ケ	企画展について、ご意見箱などを設置したり、感想を書いてもらうノートなどを用意したりするなど、入場者の満足度を知ることでもある必要ではないか。企画展が市民活動のきっかけになるような展示にしてほしい。	
	コ	UMECO企画展は市民入場が少ないと思うので、PRをもっと考えるべき。（自治会活動に回覧要請など）	
	サ	UMECO企画展について、満足度を把握する方法を検討していただきたい。	
	シ	企画展示については団体が固定化傾向にある為、幅広い団体に利用してもらう等の工夫が必要。	
	ス	企画展については、きっかけづくりの場とするのであれば、より幅広い団体の発表の場とする必要がある。	
	セ	発表者の満足度は副次的な効果であり、本来の効果である来場者の満足度について、アンケートボード等を活用して把握することが必要と思われる。	
	ソ	ホワイエの利用度が多目的コーナーに比べて低く、活用されていない月もあるため、対応を検討していただきたい。	
	タ	団体が登録を更新しない理由を把握し、対策をとっていただきたい。	資料3 No.1 登録団体数が減少している理由を分析し、 その増加策 や団体への効果的なサポート方法を検討する必要がある。
	チ	高齢化による団体数減少に対して、効果的な新規団体数確保等の活動が乏しい。	
	ツ	団体の情報を相談・連絡できるシステムを作るべき。	

②相談・支援機能【3.5点（4点：5人、3点：5人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	イーパーツパソコン寄贈事業が目標値に達した。	指標の精査は必要と考えるが、各事業で目標値を達成できており、特に相談業務については多くの案件に対応できるよう努めていることがうかがえる。
	イ	イーパーツパソコンに係る実績があった。	
	ウ	パソコン寄贈事業については、寄贈団体数が目標値を上回ることができた。	
	エ	2つの事業とも目標値に達した。	
	オ	さまざまな相談に対応しており、UMECOが多くの市民に認知されていることがうかがえる。	
	カ	相談者を増やすことができた。	
	キ	相談への対応が誠意あり、親身。	
	ク	UMECOのスタッフが多くの相談に対応している様子が相談業務の報告書の中でわかる。	
	ケ	相談機能については、その内容が多岐に亘っているが、相手方のニーズに応じた回答に努めていることが伺える。	
課題	コ	パソコン寄贈事業は、登録団体への寄贈が前提となることから、目標値の設定には工夫を図ってほしい。	

課題	サ	事業報告書への記載について、相談業務とイーパーツパソコン寄贈事業の順を入れ替えたほうが「相談業務」をより主張できると思う。	相談機能のPR、記録のデータベース化、対応のマニュアル化を行い、誰もが気軽に相談しやすく、適切な情報を得ることができる窓口を目指していただきたい。
	シ	相談窓口の雰囲気が何となく近寄りがたい感じがする。（暗い）	
	ス	相談機能のさらなる周知を行い、充実に努めていただきたい。	
	セ	記録のデータベース化や対応のマニュアル化により、職員の情報共有及び対応の均質化を図っていただきたい。	
	ソ	市民活動の相談内容をテーマごとにまとめ、傾向を把握し、対応の一律化を図ってほしい。	
	タ	相談が多岐にわたっているため、まとめ方に工夫が必要。カテゴリ別にする、つながった団体名を明記する、など。データベース化し、あとから職員誰でも検索可能とする。	
	チ	相談業務については、職員の負担軽減を図るため、傾向を分析し、ある程度趣旨が同じものについては回答をマニュアル化するなど、省力化に努める必要がある。	
	ツ	相談した内容を分野にわけて確認しておくべき。	資料3 No. 2 相談内容を分類・分析し、相談者のニーズを 把握することを通じて 、これを他事業に活用し、市民活動の活性化につなげていくべきである。
	テ	相談業務について、実績値をボランティア関係、法人化関係、団体運営などに類型化して傾向を把握し、他の事業展開に活かしていただきたい。	
	ト	相談の種別（活動者自身の相談「活動希望者からの相談」、「NPO・団体の運営についての相談」）や市民活動への援助の依頼などの分類、また、相談者の種別（個人・団体、自治会、福祉施設など）に分類して、報告をされたほうがUMECOのスタッフの方が取り組まれてきた相談がより見えやすくなると思う。	
	ナ	「相談対応フォーム」（紙ベース）を作成し、誰が第一窓口となっても必要最低限を聞き出せるような工夫があるとよい。	
	ニ	市民活動の活性化につながるよう意識して対応していただきたい。	
	ヌ	登録団体のニーズを掴み、新たな支援機能を開拓するような活動を実施して欲しい。	

③協働支援機能【3.1点（4点：2人、3点：7人、2点：1人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	市民活動団体と事業者との協働事業の参加団体数が増え、幅広い層に団体の周知を図ることができた。	資料3 No. 3, 4 事業者との協力関係を拡大・継続し、安定して事業を実施するとともに、新たに神奈川県との協力を得て大学を含めたつながりのきっかけを 創ったことは 評価できる。
	イ	市民活動団体と事業者がつながって広く活動ができた。	
	ウ	市民活動団体と事業者との協働事業、各主体とUMECOとの協働事業について、目標値に達した。	
	エ	神奈川県との共催で、事業者や大学等と関わるきっかけを作った。	
	オ	新たに県との協働事業を実施できた。	
	カ	企業・NPO・大学とのつながりのきっかけを作ったことは評価できる。今後につなげてほしい。	
	キ	企業と大学とを繋げるきっかけ作りを構築した点は評価できる。	
	ク	神奈川県の協力を得て、企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業に効果的に取り組むことができた。	
課題	ケ	全体を通じて、ほぼ前年並みの参加者に来場してもらえており、事業の周知が図られているものと思われる。	資料3 No. 5, 6 地域活動団体ネットワーク形成事業について、実施内容や参加団体に偏りがある ため、本来の目的を達成しているとは評価できない 。UMECOが主体となって 積極的に 地域の課題を把握し、ネットワーク事業を展開することに力を注いでいただきたい。
	コ	事業者や地域活動団体と市民活動団体のマッチングについては、より多様な分野や団体、協働相手を探していただきたい。	
	サ	地域の課題解決とあるが、まずは地域の課題を把握することが必要ではないか。地域の行事の出し物だけが課題ではないと感じる。	
	シ	地域毎の課題抽出を行い、その課題解決に対する取組みとしては改善の余地が多分にある。	
	ス	地域活動団体ネットワーク形成事業は、限られた市民活動団体の発表が主となっており、地域活性化、課題解決へと結び付けるといった本来の目的とずれていると思われる。本事業の趣旨に沿って実施するため、より幅広い視点を持ってマッチングに取り組む必要がある。	
	セ	地域活動団体ネットワーク事業については目標値に達しておらず、参加活動団体に偏りがある。依頼に対して団体を紹介することだけでなく、UMECOが主体となってネットワーク事業を展開することに力を注いでいただきたい。	

課題	ソ	7.「地域活動団体ネットワーク形成事業」で相談者側からの指定でも、「前日も活動を依頼しているの。」などスタッフが相談を受けている時点で説明をしながら、他の団体を紹介するなどできればよいと思う。また、特定の団体への依頼が多くなり、団体への負担度が長い目で見ると負担をかけていることにつながってしまうと思われる。相談者側からの指定があるということだが、依頼の相談があった時点で「前日も活動を依頼しているため、お願いをしづらい。」などスタッフが説明をして、他団体を紹介できれば良いのかと思う。	資料3 No. 7 地域や事業者と市民活動団体をマッチングする際には、 より幅広い視点を持って 、新たなつながりを積極的に構築していただきたい。
	タ	多くの事業を行い、団体にとっての出会いの場であることをPRすべき。	
	チ	うきうき交流サロン等、参加者数が一定なのは固定化しているのではないか。（定員か）	

④学習・体験機能【3.5点（4点：4人、3点：5人、2点：1人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	多くの事業を継続して実施しており、きっかけの場が充実している。	若者を対象としたものを含め、多岐にわたるきっかけづくりのメニューがあり、特に市民活動出張講座では多くの参加者を得ている。
	イ	きっかけづくりのメニューとしては、対象者・講座内容とも多岐に亘っており、幅広い選択肢を提供できるようにしている点は好ましい。	
	ウ	特に若者を対象にした市民活動の周知やボランティア体験機会の提供に努めているとうかがえる。	
	エ	参加者が楽しくボランティア活動を行い、目標を達成できた。	
	オ	市民活動出張講座については、3つの目標値とも大幅に上回って達成した。	
課題	カ	特に参加者が少ないものについて、団体や学生のニーズに沿っていないのか、PR不足なのかといった理由を分析し、対応を検討する必要がある。	目標値に達していない事業が散見される。要因を分析し、利用者目線に立った広報手段、開催日時、学習テーマ等を再検討し、訴求力を高める必要がある。
	キ	参加者が少ないことについては、対策を検討していただきたい。	
	ク	参加者数が達成率として100%未達はPR不足と考える。自治会連絡網を活用したらよい。	
	ケ	参加者の固定化や高齢化に対処するため、開催時間や学習テーマの再検討、講師の選定にあたっての工夫・配慮が求められる。	
	コ	参加者数、イベント数が目標に達していない事業が散見される。その要因について分析し、広報手段、開催曜日・時間帯などを再検討し、充実化を図る必要がある。とくに男女共同参画関連の参加者数が目標を下回っており、事業内容を含めて再検討の必要がある。	
	サ	夏の酷暑やゲリラ豪雨といった天候に大きく左右される屋外イベントは、開催時期や場所の見直しを検討してほしい。	
	シ	市民活動入門講座については開催時間の検討を行うなど、利用者目線に立った開始時間等、訴求力を高める必要がある。	
	ス	エアポートについて、目標値をイベント数とするもの良いが、参加者数も知りたい。今度の活動方法について、再考するべきと思う。	資料3 No. 8 指標の精査を行うとともに、アンケートの活用等により、各種講座等が市民のニーズに合っているか、その後の市民活動につながっているか等、 現状把握をより詳細に行っていただきたい。
	セ	「夏休みボランティア」体験者の中で、「ボランティア出前講座」がきっかけで参加した参加者数を把握すべき（アンケート等で）。それが出前講座の成果となるのではないか。	
	ソ	市民活動出張講座について、この講座を受けたあと、実際の行動につながっているのかを調査することはできないだろうか。	

⑤交流・コーディネート機能【3.5点（4点：5人、3点：5人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	交流会において多くのつながりをコーディネートでき、参加者数が目標値を超えて大きく増えた事業もあった。	高校生との連携など、各事業に工夫を凝らし活発な交流を図っており、安定した参加者数を確保できている。
	イ	世代を越えた交流が展開できた。	
	ウ	多くの交流ができて、お互いの団体の活動内容を知ることができた。	
	エ	UMECOスタッフの工夫により「交流」がより活発に図られていると思う。	
	オ	各事業について、おおむね目標値に達している。	
	カ	交流事業については、回を重ねる中で安定した参加者を確保することができており、中には目標値を大きく上回るものも見受けられた。	
	キ	まちづくり交流会については、高校生と連携しながら開催するなど、新たな試みに挑戦している。	
	ク	まちづくり交流会について、高校生とのコラボを新たに始めたことは特筆できる。	
課題	ケ	それぞれの事業の継続（工夫）・統合など検討する必要があると思われる。	各交流会の事業目的や実施内容を精査し、効果を検証するとともに、事業の統廃合も視野に入れた見直しを検討していただきたい。
	コ	さまざまな事業の課題を解決する必要がある。	
	サ	交流会については、それぞれの事業の目的を精査し、その目的に沿った実施内容を検討する必要がある。	
	シ	交流することによるメリットが伝わってこない。	
	ス	「声の万華鏡」は一事業としたほうがよいと思う。「まちづくり交流会」事業はなくすか、本来の目的である「新たなテーマを設定し、新事業を展開する」に特化した事業にすべきと考える。またそこから新事業が生まれればそれを新事業とすればよい。	各イベントの運営は安定していると思われる。マンネリ化対策、団体の負担軽減等、今後の工夫と継続に期待したい。
	セ	UMECO祭りについては、各回のコンセプトが抽象的なため、サブテーマのようなものを設定することで回によって特色を出し、マンネリ化を防止するような取り組みに期待したい。	
	ソ	UMECO祭り、交流会とも、運営的に安定しているようにみえるが、主催団体への負担が過度にならないようにしないと、負担感が増して継続が難しくなる恐れがある。	

⑥情報の集約・発信機能【3.3点（4点：3人、3点：7人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	多様な媒体を活用した情報発信等を実施できている。	さまざまな媒体を活用し、UMECOや市民活動の情報を発信できている。
	イ	UMECOや市民活動の情報をさまざまな方法で発信できている。	
	ウ	多様な広報媒体を活用して、さまざまな機会を通じて情報発信を行っている。	
	エ	各事業について、おおむね目標値に達している。	
課題	オ	事業の効果を検証するため、指標を設定すべき。	全ての事業で指標を設定するとともに、参加者からの意見等を積極的に集約し、結果を分析した上で、より効果的な情報発信に取り組んでいただきたい。
	カ	ホームページやフェイスブックなどの更新回数の指標を設定してほしい。	
	キ	指標が設定されていない事業があるため、改善していただきたい。	
	ク	参加者からの意見や感想の集約を積極的に行い、ニーズの傾向を把握、分析した上でより効果的な情報発信に取り組む必要がある。	
	ケ	若年層へのPRや費用対効果の観点からも、広報紙を郵送だけでなくメールによる配信を追加する等、より積極的にインターネットを活用していただきたい。	資料3 No. 9 市民活動への 参加者を若年層などにも拡大する という観点から、インターネットやSNSを活用した積極的な情報発信手法を検討する必要がある。
	コ	もう少し企業や学校等にも幅広くアピールし、有効活用してもらえると良い。	
	サ	メールマガジンなど、UMECOの側から積極的に情報発信を行う手法を検討していただきたい。	
	シ	メール・インターネットを活用し情報を発信すべき。	
	ス	自治会（地域）として各地区に情報が伝わっていないと考える。	
	セ	市民活動への若年層参画の観点からは、今以上にSNS等の有効活用が必要である。	

(2) その他

①男女共同参画【3.0点（4点：1人、3点：8人、2点：1人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	事業を継続している。	資料3 No. 10～13 市と連携して事業を継続している。今後、行政への協力を強化するだけでなく、UMECOにおいてもニーズ調査や議題の選定等に主体的に取り組む、集客につなげていただきたい。
	イ	市と連携して男女共同参画に関する事業に取り組んでいる。	
要望	ウ	重要な事業である。	
課題	エ	関連団体等へのニーズ調査を行い行政と情報を共有するなど、積極的に関わるべき。	
	オ	より多くの参加者が得られるよう努めるべき。	
	カ	参画（出席）していないが、議題の選定に課題があると思われる。	
	キ	市との協働事業としての講座に参加者6名はいかがなものか。人権・男女共同参画課への協力をもっと強化すべき。	
	ク	参加者は減少傾向にある為、訴求力の高い講演内容等、集客の工夫が必要である。	
	ケ	「旧女性プラザ」の活動は、UMECOの基本的活動の一つであると認識しており、市から提供される事業だけでなく、主体的な事業実施に取り組んでほしい。	

②国際交流【2.9点（4点：1人、3点：7人、2点：2人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	わくわく交流会で「国際交流」を取り上げた。	資料3 No. 14～16 一定の事業を継続している。現行の展示スペースをさらに活用したり、他事業においてこの分野をテーマとして取り上げるなど、今後の積極的、継続的な取組に期待する。
	イ	交流会が継続している。	
	ウ	駅近くの公共施設ということで多くの外国人の来訪を受ける中、インバウンド対応として、積極的にコミュニケーションをとるように努めている。	
要望	エ	トイレ前廊下の国際色豊かな掲示がよい。つながりのきっかけになる工夫ができればよい。	
課題	オ	ティーサロン等、他事業においてもテーマとして取り上げていただきたい。	
	カ	積極的に取り上げていただきたい。	
	キ	「旧国際交流ラウンジ」の活動は、UMECOの基本的活動の一つであると認識しており、より積極的にラウンジ機能の強化に努めてほしい。	
	ク	参加団体数に比べ参加者数が少ない。集客のための工夫が欲しい。	
	ケ	団体の課題を解決していくべき。	
	コ	もう少し事業を深めることができるのではないかな。	

Ⅱ コンセプトの達成状況

①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.6点（4点：6人、3点：4人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	多くの事業を実施したことで、市民活動を始めるきっかけの場として十分な役割を果たしていると考えられる。	多彩な事業を通じ、幅広い活動の場を提供できており、市民活動を始めるきっかけの場として十分な役割を果たしている。
	イ	年代や立場を越えたさまざまな事業展開がされており、誰でも気軽に参加できる場を提供している。	
	ウ	さまざまな事業を実施し、市民と団体がつながり、良い社会づくりをしている。	
	エ	多彩な事業を通して「きっかけの場」づくりが行われており、その拠点としてUMECOが重要な場となっている。	
	オ	多くの事業を実施している。	
	カ	一生懸命努力が感じられる。	
	キ	さまざまな切り口からアプローチできるよう、幅広い活動の場を提供し、市民活動を始めるきっかけづくりに取り組んでいる。	

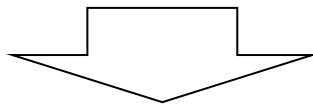
課題	ク	全ての事業を今後も継続すべきかは検討する必要がある。参加者の意見を聴取するとともに、市民活動団体を社会貢献活動に結び付けるという観点から、事業の見直しを行っていただきたい。	資料3 No. 17 UMECO全体の事業がこのコンセプトに偏っている 傾向 がある。「きっかけ」を「行動」、「実現」につなげていくという視点から事業のバランスを見直していただきたい。
	ケ	よりよいきっかけやつながりを生み出すように、重要な事業を検討していただきたい。	
	コ	「きっかけの場」は市民活動に関わる第一ステージとして重要だが、UMECO全体の事業がこの場に集中しているきらいがある。きっかけを「行動の場」、「実現の場」につなげていくという視点から事業を再検討していただきたい。	
	サ	市民活動に関わっていない人へのきっかけとして、より多くの市民に興味をもってもらえるような企画になっていくことを希望する。そのためには、事業の内容の精査が必要ではないか。	
	シ	高齢者には同世代の団体を、という紹介だけでなく、興味・特技を活かせる若い方主流の世代の団体も積極的につなげてほしい。シニア世代の活躍を求める団体も多い。逆も然り、若い方にもシニア世代の団体を。異世代交流のきっかけづくりを実施していただきたい。	資料3 No. 18 事業の見直しにあたっては、参加者の意見集約 結果にもとづき 、実施内容の改善までのサイクルの確立、事業の対象に応じた広報媒体の選定、異世代交流の促進等、さまざまな工夫が必要である。
	ス	情報発信については、伝えたい対象者によって活用するメディアを変えたり、複数のメディアを同時に活用したりするなど、さまざまな工夫をしてほしい。	
	セ	それぞれの事業の内容が、これまで市民活動に参加してこなかった方へどのように受け止められているか、また、参加された方がどのような感想を持ったのか、それらを集約・分析して、どう改善していくかというサイクルを確立する必要がある。	
	ソ	情報発信での工夫や新たに市民活動を開始するためのニーズ喚起に重点を置いた取組み強化の必要がある。	

②シェアしながら それぞれの思いがつながる行動の場【3.4点（4点：4人、3点：6人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	各種の団体等のまとめをしている。	団体間の交流を通じ、参加者相互の学びの場として機能するとともに、今後の活動における連携・協力が期待できる。
	イ	団体の活動情報を広く知らせることができた。	
	ウ	多様な主体間での連携に取り組み始めており、今後の発展に期待ができる。	
	エ	団体間の交流を通じ、参加者相互の学びの場として機能するとともに、今後の相互の活動において連携・協力が図られる可能性が期待できる。	
課題	オ	特に、地域活動団体、事業者、NPO法人との連携については、積極的に推進していただきたい。	市民活動団体間、地域活動団体、事業者、NPO法人等、各主体の積極的な参加を促すような取組に期待する。
	カ	類似・関連分野の団体の交流を推進する際、地域活動団体、事業者の積極的参加を促すような取組みに期待したい。	
	キ	分野ごとの団体の交流を推進していただき、交流の先を意識した行動の場となる団体同士のかかわりや思いの共有に期待したい。	
	ク	さまざまな分野の情報交換を実施するべき。	
	ケ	団体の思いを共有し、それらをつなげ、活動を広げるという視点で、各事業の目的をより明確にして実施していただきたい。	資料3 No. 19 取組に あたり 、事業実施時には団体間の交流の意義を明確にするとともに、実施後には聴取した意見等をもとに事業内容を見直し、より発展的な連携の構築や参加者増を図っていただきたい。
	コ	交流することで生まれる利点をもっとアピールしてほしい。	
	サ	まちづくり交流会や新春交流会のように、内容を充実させて参加者増となったものがある一方、わくわく交流会では、参加者数が前年を大きく下回っている。	
	シ	参加団体・参加者にとって、どういう内容であれば参加しやすいか、興味を惹かれるかということを、参加者の意見を参考にしながら、事業内容の見直しを図る必要がある。	
要望	ス	分野ごとの団体の交流の場「わくわく交流会」の充実もさることながら、違う分野の団体（競合しない）が、一つの目的に向かって協力する場（「まちづくり交流会」になるか）は、より発展性があると考え。そうした異分野団体連携のコーディネートを期待する。	

③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【3.1点（4点：1人、3点：9人）】

区分	項番	第三者評価シート等の意見	評価文案
成果	ア	人間関係を育む場であり、よい社会につながると考えられる。	継続的に、地域活動団体と市民活動団体を中心としたマッチングを進めてきており、UMECOの活動として定着し、ネットワークを構築している。
	イ	UMECOが地域に認知され、地域活動団体ネットワーク形成事業を継続して実施した。	
	ウ	多様な主体との協働事業を通し連携を図り、地域課題解決に向けた取り組み姿勢がうかがえる。	
	エ	徐々に地域活動団体とのつながりが見えてきていることは、評価できる。	
	オ	継続的に市民活動団体と地域活動団体とのマッチングを進めてきており、UMECOの活動として定着し、団体相互から認知されてきている。	
課題	カ	受け手となる市民活動団体が極めて限られており、内容もレクリエーション（慰問）がほとんどとなっている。	現状では、限られた団体しか参加していない。地域の課題を幅広く把握し、それを解決するという視点をもって、行政等さまざまな主体と連携しながら事業に取り組んでいただきたい。
	キ	現状では、事業に参加している団体や分野が限定されている。このコンセプトの実現に向け、地域の課題を幅広く把握し、それらの解決に向けた事業の実施に努めていただきたい。	
	ク	地域の課題把握が喫緊の課題であり、早急に対応を検討する必要がある。	
	ケ	今後は、地域活動団体と連携を図りながら、地域の課題発掘と解決に向けたアプローチについても取り組んでほしい。	
	コ	まだ多くの課題があり、よりコンセプトの実現を目指していただきたい。	
	サ	事業や団体の交流における問題を抽出し、サポートしていただきたい。	資料3 No. 20 地域課題の解決に向け、指標の精査、アンケートの活用等を行いながらPDCAサイクルを定着させる必要がある。
	シ	「市民交流センター」としてのUMECOが「地域課題の共有、解決の拠点」として認識され、その機能を果たすよう取り組んでいただきたい。	
	ス	UMECO開設から3年。「きっかけの場」、「行動の場」をコンセプトにした事業は定着してきている。そこから見えてきた課題、市が把握している課題をお互い共有し、解決へ向けての事業へ発展することに期待する。	
	セ	「行動を社会貢献につなげる」という点では問題はないが、「地域の課題を解決する」というもう一つの柱からのアプローチがほとんど見受けられない。	
	ソ	常にPDCAを行い、常に最適なソリューションを提供できる環境づくりが必要。	
	タ	事業全般に共通することだが、実施にあたっては、その効果を検証できるように、指標を精査するとともに、アンケート等により利用者の意見を得られるよう留意していただきたい。	



Ⅲ まとめ

資料3 No. 21

多くの事業を継続して実施しており、特に多様な主体間での連携に取り組んでいることなど、機能面では一定の成果を上げていると評価できる。

しかし、UMECO全体の事業が「きっかけの場」としてのものに偏っていること、参加している団体や分野が限定されていることなどの課題がある。

今後は、UMECOが最終的に社会貢献の「実現の場」を目指していることを改めて意識していただき、地域の課題をより幅広く積極的に把握し、解決に向けた事業に取り組まれることを望む。

なお、事業の実施にあたっては、アンケート等を活用し、その効果を客観的に検証していただきたい。

平成 30 年度おだわら市民交流センター UMECO 第三者評価（案）

○ 各委員の評価点の平均点（5 点満点）

拠点	相談・支援	協働支援	学習・体験	交流	情報発信	男女共同	国際
3.6 (-)	3.5 (-)	3.1 (-)	3.5 (-)	3.5 (-)	3.3 (-)	3.0 (-)	2.9 (-)

誰でも気軽に	シェアしながら	地域の課題を解決する
3.6 (-)	3.4 (-)	3.1 (-)

※（ ）内は前年度の評価点

I 機能の達成状況

(1) 6つの機能

①拠点機能【3.6 点】

- ・ UMECO 企画展や活動エリアの稼働率について目標値を達成しており、拠点としての周知が進んでいる。
- ・ UMECO 企画展において、より幅広い主体が参加できるよう、ホワイエの積極的活用を図るとともに、アンケートボード等による来場者の満足度の把握や PR に努めていたきたい。
- ・ 登録団体数が減少している理由を分析し、その増加策や団体への効果的なサポート方法を検討する必要がある。

②相談・支援機能【3.5 点】

- ・ 指標の精査は必要と考えるが、各事業で目標値を達成できており、特に相談業務については多くの案件に対応できるよう努めていることがうかがえる。
- ・ 相談機能の PR、記録のデータベース化、対応のマニュアル化を行い、誰もが気軽に相談しやすく、適切な情報を得ることができる窓口を目指していただきたい。
- ・ 相談内容を分類・分析し、相談者のニーズを把握することを通じて、これを他事業に活用し、市民活動の活性化につなげていくべきである。

③協働支援機能【3.1 点】

- ・ 事業者との協力関係を拡大・継続し、安定して事業を実施するとともに、新たに神奈川県との協力を得て大学を含めたつながりのきっかけを創ったことは評価できる。
- ・ 地域活動団体ネットワーク形成事業について、実施内容や参加団体に偏りがあるため、本来の目的を達成しているとは評価できない。UMECO が主体となって積極的に地域の課題を把握し、ネットワーク事業を展開することに力を注いでいただきたい。
- ・ 地域や事業者と市民活動団体をマッチングする際には、より幅広い視点を持って、新たなつながりを積極的に構築していただきたい。

④学習・体験機能【3.5点】

- ・若者を対象としたものを含め、多岐にわたるきっかけづくりのメニューがあり、特に市民活動出張講座では多くの参加者を得ている。
- ・目標値に達していない事業が散見される。要因を分析し、利用者目線に立った広報手段、開催日時、学習テーマ等を再検討し、訴求力を高める必要がある。
- ・指標の精査を行うとともに、アンケートの活用等により、各種講座等が市民のニーズに合っているか、その後の市民活動につながっているか等、現状把握をより詳細に行っていただきたい。

⑤交流・コーディネート機能【3.5点】

- ・高校生との連携など、各事業に工夫を凝らし活発な交流を図っており、安定した参加者数を確保できている。
- ・各交流会の事業目的や実施内容を精査し、効果を検証するとともに、事業の統廃合も視野に入れた見直しを検討していただきたい。
- ・各イベントの運営は安定していると思われる。マンネリ化対策、団体の負担軽減等、今後の工夫と継続に期待したい。

⑥情報の集約・発信機能【3.3点】

- ・さまざまな媒体を活用し、UMECOや市民活動の情報を発信できている。
- ・全ての事業で指標を設定するとともに、参加者からの意見等を積極的に集約し、結果を分析した上で、より効果的な情報発信に取り組んでいただきたい。
- ・市民活動への参加者を若年層などにも拡大するという観点から、インターネットやSNSを活用した積極的な情報発信手法を検討する必要がある。

(2) その他

①男女共同参画【3.0点】

- ・市と連携して事業を継続している。今後、行政への協力を強化するだけでなく、UMECOにおいてもニーズ調査や議題の選定等に主体的に取り組み、集客につなげていただきたい。

②国際交流【2.9点】

- ・一定の事業を継続している。現行の展示スペースをさらに活用したり、他事業においてこの分野をテーマとして取り上げるなど、今後の積極的、継続的な取組に期待する。

Ⅱ コンセプトの達成状況

①誰でも気軽に つながりを生み出すきっかけの場【3.6点】

- ・多彩な事業を通じ、幅広い活動の場を提供できており、市民活動を始めるきっかけの場として十分な役割を果たしている。
- ・UMECO全体の事業がこのコンセプトに偏っている傾向がある。「きっかけ」を「行動」、「実現」につなげていくという視点から事業のバランスを見直していただきたい。
- ・事業の見直しにあたっては、参加者の意見集約結果にもとづき、実施内容の改善までのサイクルの確立、事業の対象に応じた広報媒体の選定、異世代交流の促進等、さまざまな工夫が必要である。

②シェアしながら それぞれの思いがにつながる行動の場【3.4点】

- ・団体間の交流を通じ、参加者相互の学びの場として機能するとともに、今後の活動における連携・協力が期待できる。
- ・市民活動団体間、地域活動団体、事業者、NPO法人等、各主体の積極的な参加を促すような取組に期待する。
- ・取組にあたり、事業実施時には団体間の交流の意義を明確にするとともに、実施後には聴取した意見等をもとに事業内容を見直し、より発展的な連携の構築や参加者増を図っていただきたい。

③地域の課題を解決する 行動を社会貢献につなげる実現の場【3.1点】

- ・継続的に、地域活動団体と市民活動団体を中心としたマッチングを進めてきており、UMECOの活動として定着し、ネットワークを構築している。
- ・現状では、限られた団体しか参加していない。地域の課題を幅広く把握し、それを解決するという視点をもって、行政等さまざまな主体と連携しながら事業に取り組んでいただきたい。
- ・地域課題の解決に向け、指標の精査、アンケートの活用等を行いながらPDCAサイクルを定着させる必要がある。

Ⅲ まとめ

多くの事業を継続して実施しており、特に多様な主体間での連携に取り組み始めていることなど、機能面では一定の成果を上げていると評価できる。

しかし、UMECO全体の事業が「きっかけの場」としてのものに偏っていること、参加している団体や分野が限定されていることなどの課題がある。

今後は、UMECOが最終的に社会貢献の「実現の場」を目指していることを改めて意識していただき、地域の課題をより幅広く積極的に把握し、解決に向けた事業に取り組まれることを望む。

なお、事業の実施にあたっては、アンケート等を活用し、その効果を客観的に検証していただきたい。